

Heroldo de HEL

N-ro 60 1995 decembro-1996 januaro

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

053 苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田 淳 方
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO
ĉe Acuŝi HOŜIDA
Mijanomori 2-18-18, TOMAKOMAI
053 Japanio

ENHAVO

- La 59-a kongreso de E-tistoj en
HOKKAJDO
第59回北海道エスペラント大会
Emiko BABA 馬場恵美子 2
- Saluto al la Hokajda Kongreso
北海道大会へJEIからのあいさつ 3
- RAPORTO el J.K. en JOKOHAMO
日本大会レポート
ŬATANABE Ŝindoo 渡辺晋道 5
- Gratulon, Samideano MUKAI !
元HEL会員、サミデアノ、向井さん。
おめでとう。
Mituisi K 三ツ石 清 6
- Riceitaj poŝtaĵoj 受領郵便物
Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 7
- EROJ EL INTERRETO(Angle:Internet)
(インターネットより)
Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 7
- La Zamenhofa festo(Sapporo, Tomakomai)
ザメンホフ祭(札幌, 苫小牧) 9
- La tempo(tradukis:OOŜIDA Takesi) 10
- Novajoj 近況報告 12
- Novjara Saluto de S-ro rolf ernst en
Svislando
スイスの S-ro rolf ernstからの年賀 18

Anglalingva senkosta esperantkurso
発展するエスペラント無料講習会(インタ-
ネット上で、英語で教えています)
Acuŝi HOŜIDA 星田 淳 19

Informo el SES 《Generala kunveno》
札幌エスペラントから総会開催のお知らせ
Emiko BABA 馬場恵美子 20

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

El redakitejo 編集部から
今年は例年になく雪がたくさん降り、どこ
でも話題は除雪に苦勞しているという話ばかり。
これだけドカッと降れば、本当に「ドカ
雪」ですね。

マンション住まいで除雪の心配もなく「冬
は寒くて雪が降って当たり前、昔は(ずいぶん
昔の話で、私が子供の頃だから、ワッも
う40年も前のこと?)玄関が埋まりそう
なくらい雪が積ることがよくあった」なんて
他人事のように言っていたら、すっかり風邪
をひいてしまいました。土曜、日曜は家でお
となしくしているのですが、職場へ行くと誰
かが必ずくしゃみをしていてお互い風邪を移
しあっているようで、なかなか完全には回復
できずに、新年講習会は欠席のハメに。

本号も、1月末日発行予定が10日も遅れ
てしまい申し訳ありません。

(Ejko Abe 阿部映子)

第59回北海道エスペラント大会

La 59-a Kongreso de E-tistoj en HOKKAIDO

馬場 恵美子

今年は9月30日と、翌1日に3年ぶりに札幌で開催と日程だけは1年前から決まっていたが市内の公共施設はことごとく利用出来ない状況を不思議に思っていた。6月15日の北海道新聞に全国生涯学習フェスティバル(まなびピア'95)の広告が掲載されて漸く事態がのみ込めた。(札幌市内80会場で催しが行われる)記事を読むと「このフェスティバルは参加団体が自由に催し物を企画する・運営する持ち寄り方の祭典です」とある。そう言えば去年富山で開催したニュースを見たような気がする。即電話でまなびピアに照会をすると、未だ参加の枠は或るとのこと。急遽役員会が持たれ日程を大幅に変えてこの事業に参加することとする。問題になったのは常に一般市民向けの催しにしなければいけない、物品販売・参加費の制限、報告義務など。

初日。北海道母子福祉センターで連盟総会。総会についての詳細は議事録を参照していただくこととして次期大会は岩見沢。パンケードはサッポロファクトリー煉瓦館。工場直営店だけビールのお味は格別だったそう。

2日目。札幌市教育文化会館にて講演会と1日入門講座。この部分からが「まなびピア」に参加する形となる。講演会は佐藤勝一氏(県立宮古短大助教授)による「外国語教育と国際語—なぜ英語だけではいけないのか」(午前日本語、午後からはエスペラント語+日本語で星田HEL委員長通訳)英語教育に長い間たずさわって来た同氏がエスペラントを必要とする理由や盛岡で開かれた世界アルペンスキー選手権を題材に通訳の必要性について大きな視点からエ

スペラントの価値を見出そうとする興味深いものであった。

1日入門講座講師は渡辺晋道氏。(2回開講) SALUTON! から始まり受講生に一言ずつ声をだしてエスペラントを発音させたり、基本的な文形を歴史を折り混ぜながら説明していった。終了後受講者から早速入門講座の希望があった。展示物は図書とパネル。図書は前日販売したJ E I から取り寄せたものと、会員の持ち寄り。実際に手に取ってみることでかなり近親感が湧くよう。パネルは絵や写真を多くして視覚に訴えるものとした。今回宣伝にも力を入れ北海道新聞に個人向け広告を出したり、会場に置いた100枚のチラシは後で見ると18枚の残となっていたが何より「まなびピア」の冠の威力は大きくが記事が翌朝刊に掲載された。もし反省点があるとすればエスペランティストの会話がほとんどなかったのが残念。参加28名。不在参加13名。一般市民参加29名。大会記念品は中国より直輸入の「ĈINAJ KLASIKAJ POEMOJ ILUSTRITAJ」

★大会参加者(☆は不在参加)

★阿部映子 ☆石黒漢子 ★伊藤直樹 ☆岩井正久
★江口音吉 ★大鋸敏雄 ☆大原喬 ☆影浦泰子
☆影浦英明 ★金森美子 ★川合由香
★木村喜任治 ★児玉広夫 ★小林喜美子
★後藤義治 ★佐藤勝一 ☆佐藤奈美 ☆佐藤晴美
☆佐藤弘子 ☆佐藤布美子 ☆末永章子
★須藤昭二 ★瀬川綾子 ★豊蔵正吾
★二郷美砂子 ★馬場恵美子 ☆藤巻謙一
★星田淳 ★星田文子 ★前田幸一 ★三浦清
☆水野義明★港利子 ★宮岸忠孝 ★山岸悦子
★山下博子 ☆山本昭二郎 ★横山裕之
★義村政見 ★渡辺晋道 ★渡辺康子

162 東京都新宿区早稲田町12-3

162 Tokyo-to Sinzyuku-ku Waseda-mati 12-3

TEL (03)3203-4581 FAX (03)3203-4582

TEL +81-3-3203-4581 FAX +81-3-3203-4582

郵便振替口座:00130-1-11325

Pošta ĝirkonto: 00130-1-11325

銀行口座:第一勸業銀行早稲田支店(068)普通預金1150684

UEA-Konto: jeia-b

Saluto al la Hokajda kongreso

YAMASAKI Seikō

SinJORinoj kaj sinjoroj,

En la nomo de la Japana Esperanto-Instituto mi salutas vin kaj gratulas la organizan komitaton pro la sukcesa okazigo de tiu ĉi manifestacio de nia movado en la regiono Hokajdo.

Mi partoprenis vian kongreson en 1990, la memoro pri kiu nostalgie restas en mia menso: afablo de sinjoroj Hosida, Kodama, Miyazawa, kaj multaj aliaj, interalie sinjoro Kawahara, kiu ne estas plu inter vi.

Nia instituto faros ĉion en ĝiaj rimedoj por helpi vin en la klopodo por la disvastigo de la internacia lingvo. Niaflanke ni atendas ke vi reciproke subtenos nin, instigante viajn amikojn amase aliĝi al nia instituto, kaj espereble al nia tutmonda organizo, Universala Esperanto-Asocio.

Dankon.

1995-07-13

YAMASAKI Seikō

Yamasaki Seiko

国際共通語に挑戦



札幌 国際共通語として、十九世紀末に考案された「エスペラント語」の入門講座が一日、中央区札幌市教育文化会館で開かれた。写真。札幌で開催中の全園生

進学習ラフエスティバル「まなびのシア」の一環で、道エスペラント連盟が主催。同語はポーランドの眼科医サメンホフが世界の言語を再構成して作った。単純な文法と豊かな表現力が特徴で、世界中で約百万人が学んでいるという。

入門講座は午前と午後、一回ずつ開かれ、それぞれ約四十人の市民が発音や文法の基礎を学んだ。

講師を務めた同連盟教育部の渡辺晋道さんは「大切なのはコミュニケーションの心」と話していた。

北海道新聞

まなびのシア

★沼津エスペラント会通信講座★

全16課テキスト総ページ数320/60分カセット4本つき/入門者だけでなく、文法的観点からエスペラントを総復習したい人にも最適/標準受講期間6か月最長1年/ファックスやパソコン通信での受講可/専任講師が質問にも迅速に対応/受講料1万円(全課程・全教材・添削料含む;学割・敬老割引あり)/全課程修了者には追加料金無しで国際文通を仲介/案内書無料進呈

★パンフ「地球語エスペラント」★

B5サイズ4ページで簡潔にエスペラントを紹介するパンフレット/コピー自由;好きなだけ複写して図書館などに置いてください/空欄に配付者や会の連絡先を記入できます/80円切手を2枚同封の上沼津エスペラント会まで請求のこと

★沼津エスペラント会広告基金★

一般の雑誌などにエスペラントに関する有料広告を載せる基金です/1995年には、週刊金曜日に2件(エスペラントに関する意見広告と、日本大会についての案内)日中友好文通の会の機関誌に沼津の通信講座についての案内を載せました/一口2,000円のカンパだけでなく、掲載誌や広告の内容についてもご意見を募集/カンパをくださった方には、最新の企画の案内と報告をお送りします

沼津エスペラント会 tel/fax 0559-22-3783 郵便振替 00890-7-73614
e-letero: HPJ24795@pcvan.or.jp

[10/13. 12:00~受付]

北海道からは、三浦清さん、麓千代次さん、渡辺晋道が実参加しました。三浦さんは、1、2週間前に参加を決めたとのことで、会場で会ってびっくりしました。

全体の参加数は、実参加250名ほど、含不在480名と思われます。詳細は、正式発表を見てください。

20:00から、アミーカ ベスベローがあり、ハマロンドや、外人の歌、芸、藤本達生さんの話しなど。全てE。藤本さんは、話が上手で感激しました。

[10/14. 10:00~試験]

講師制度を主張している私としては、柴山純一さんが、「2級以上を講師にしては」と、言っているのですから、「先ず隗より始めよ」とばかり、受けました。

受験者は、2級1名、3級2名、4級3名(1名は3級も)、計5名、述べ6名。2級の問題は、1)引退した、J. C. WELLS (UEA前会長)が昨年のUKで話した挨拶の一部を訳せ。2)世界大会の参加者名簿から、50名を選んでカレンダーを送ってもらう設定で手紙を書きなさい。3)文法の問題。4)小論文。

やはり、試験には、試験用の勉強をしなくては駄目なことが分かりました。例えば、2)の設定文章作成は、普段しないことです。設問の要求する条件を書き満たしたかという、今、思い出すと、かなり欠落したと思います。また、単語も、その時は思い出せず、後から思い出すとといったことがあります。3)文法問題は、よく、山岸さんが問題にする、「その箱は、空だった」Mi trovis la keston malplena. と、「空の箱を見つけた」Mi trovis la keston malplenan. とか、komenci kurso を自動詞、他動詞の間違いなどを指摘して、入門者に教える問題などでした。

試験が終わると、すっかり頭がおかしくなりました。

てっきりダメだと思っていましたが、先日、合格通知が来たので、驚いています。

[10/14. 13:30~開会式]

石井義章さんと、ネパール人のTシャツ売りを手伝っていたら、土屋さんに「開会式が一番大事なときなんだから、座ってくれ!チェ エストゥ」と言われて座ると、「各地からきた人、立ってください!北海道!」「東北」「関西」と、指名され立ち上がり、カッコイイ開会式だなと感心しました。

[スタッフとの話]

スタッフと話す時間があつたのですが、やはり、普段の練習が違うようです。彼等は、「実行委員が集まるときは、Eで話すようにする。準備期間が、実行委員の勉強で、始まったら、もう終わっている」とのこと。また、公開講演は、両日で500円、1日講習は2000円。常に、講習会などは有料にしているとのこと。

[10/14. 17:00~エスペラントで話そう]

講師、Wajik Iwanicki

- 1)自己紹介をさせ、他の人に「彼は、何処からきたか? 仕事は何か?」と聞く。
- 2)単語を説明させる。例、問題 skribi:説明者 kiam vi leteras,vi agas tiel.
- 3)ワジクに質問をする。「結婚してますか?」など。
- 4)お互いに、質問させる。「貴方は何人子供がいますか」「3人です」と。

1)と、2)は面白かったけれど、質問が、余りに個人的なことになったり、屁理屈のような質問をすると、面白くなくなると思いました。

[藤巻謙一さんとの話]

彼は、1)声を出して呼んで、訳さずに、読んだ順に理解するようにする。2)講演のテープを聞いて、原稿を起こす。というのが、良い勉強だと言っていました。

兎に角、北海道とは土俵が違うことが、羨ましく思えました。土俵とは、Eの人口です。Eの人口は、地域の人口に、ほぼ比例するのでしょうかから、北海道は、北海道でまともならないで、東北や韓国と仲良くしたほうが良いのかもしれない。

そして、北海道のエスペランティストは、北海道のエスペラントを、もっと大事にするべきだと、改めて思いました。

元HEL会員、サミデアノ、向井さん。おめでとう。

” 向井豊昭、我が心の友

早稲田文学新人賞

入選を祝って

名古屋、三ツ石清

朝日新聞（12月21日夕刊）文芸時評（蓮実重彦）にて激賞された。”
” 抑制されたアナーキズムとも言うべき風土が漂っている（BARABARA）には、サスペンス豊かな言葉の運動が描かれている。、、、ここで断言できるのは、今月号の文芸雑誌を飾る文壇作家たちの作品のどれにもまして、この作品の言葉が鈍い興奮をあたりに行き渡らせてるという一点につきている。”と、5段に渡る紙面で、顔写真入りで紹介された。

向井さんは、エスペランチストである。かつて、北海道日高地方で、愛情一杯の優れた児童教育家として、小学教師をしていたころ、エスペラントでアイヌ民話に取材した作品を書き、自費出版し、ヨーロッパの文通仲間に贈ったり、また講習会を開いたりした。そのころの彼は、ザメンホフの徒として全力投球したサミデアノである、北海道エスペラント連盟の会員でもあった。

また小説 *Saitō hidekatsu*（齊藤秀一）では、不遇のうちに死んだ、サミデアノ、ローマ字主義者の経歴をつぶさに書いてある。記述内容は、運動史資料としても重要である。作品集には、“鳩笛””ここにも”、詩集”太平洋”などあり。そのた、未発表作品は、20数編あり。

私の拙い作品、“*A mindaj amatoraj ŝtelistoj*”（愛すべきアマチュア泥棒たち）2編にも、暖かい批評を下さり、前作の愚作（コーヒー物語）発表以来、これらのエスペラント文を通読して、（辞書を使わずに貴作品を通読でき、エスペラントを忘れていなくて、嬉しい思いをした）などと、いろいろと指導、激励のお言葉を下さり、日本エスペラント大会文芸コンクールに応募し、第2席に入選したのも、向井さんのご指導の賜物である。

作品発表誌：北方文芸、日高文芸、北海道文学全集 etc

追記1 向井恵子（向井氏夫人、日曜画家）さん描く（豊昭像）-詩集”太平洋”所載-を、昨夜つくづく見ながら、氏の受賞をお祝いした。

2 流行の表現で書くと、この作家の身体に、優れたDNAが、祖父向井永太郎（札幌の詩人、石川啄木の仲間）の優れた文学的資質のDNAが、流れていて、それが今回の文学賞入選の影に潜んでいるのではないか。

Ricelita j poŝtajoj (HOSIDA)

受領郵便物 (星田淳 扱い—読みたい方はお知らせください)

*Novajoj Tamtamas n-ro 107 oktobro 1995

毎号A5 X 8頁、全文エスペラント (横浜E会)。今年の日本文大会 (横浜) について Reza Kheir-khah と DOI Cieko が報告している。

*Novajoj Tamtamas n-ro 108 novembro 1995

日本大会への世界各地からのメッセージ11通、Spomenka Štimec, Wera kaj Detlev Blanke からの呼びかけなど。

*La Tamtamo n-ro 262 oktobro 1995 (懸絵)

毎号A5 X 8頁、日本文だがこの号はザメンホフ祭朗読コンクール課題などでうち2頁半が Esp文。

*La Tamtamo n-ro 263 novembro 1995

日本大会特集が前号から続いている。

*La Movado N-ro 537 nov. 1995

B5 X16頁、内エスペラント文1頁、Esp. 一日対訳2頁半。小西岳による宮沢賢治作品の対訳は9月に終わった「気のいい火山弾」の後を受けて「蛙のゴム靴」の連載が始まった。

*La Movado N-ro 538 dec. 1995

“Laŭlum と話したことなど” (みね よしたか) がトップに出ている。道大会の記念品「配図古詩精選」の訳者Laŭlum (李士俊) は11月来日、多くの人に会っている。「—李さんも能弁である。日本以上に外国との交流が少ない中国で、どのようにしてそんなに上手に話せるようになったのか、という私の問いには、これは音読の成果である、

声を出して本を読むことで訓練した、という予期した答えが返ってきた。—」

Salono: 「大きな池」は granda lago? 答は PV, PIVの -egのRim. と lago, lagoeto の項にあります。

*Mejlŝtono N-RO 132 NOVEMBRO '95, 仙台E会 B5X4頁のうちエスペラント文1頁。

*VERDA MONTETO N-ro 89 Nov.-Dec. 1995, Redak-tita ĉe MAEDA Yonemi (和歌山緑丘会) 変形B5 X 10頁、Kontaktoから転載の Lidjaが終わった。

*ĈEF-INFORMOJ pri la ESPERANTO-KURSARO: el Esperanto Information Center; 410 Darrell Road, Hillsborough, CA 94010-6710, U.S.A.

96年のサンフランシスコ夏期講座。6月24日～7月12日。受講料\$360、宿泊は3週間3食付きで\$450～858。入門から上級までの4クラス。講師は DEREK ROFF, KATELIN SMIDELI-USZ, HISASI KITAGAWA (北川久 el JEI), DOROTHY STERMER.

*Hokkaidō Rōmazi Kenkyū No. 85 (復刊59)

北海道ローマ字研究会発行, Hes. 7n. 12gt. 25nt. B5 X 8頁、OTAYORI 欄に河原一弥氏 (静岡 KAWA-HARA Kazuo?)の手紙あり、MITUISI Kiyosi san wa, nihon demo, sekai demo, — sirareta kata desu. と、書いている。

EROJ EL INTERRETO (Angle:Internet)

(インターネットより)

HOSIDA (Tomakomai)

インターネットのエスペラント・ニュースグループの最近の記事から少し紹介します。ここには毎日新しい記事(意見、論説も)が続々出ています。システムの管理用語は英語なので、あちこち英語が混じって見えますね。記事内容はほとんどエスペラントですが。

★Article 11 (1748/2119) in soc.culture.esperanto: From: Zhong Qiyao <zhong@accton.com.tw>
Newsgroups: news.newusers.questions, soc.culture.esperanto, sci.lang

Subject: internacia adreso komencu de la granda flanko Date: 6 Dec 1995 03:41:44 GMT

ヨーロッパ的な時刻表示(分-時-日-月-年)やアドレス(人-番地-市-地域-国)に対して、区分の大きいほうから小さいほうへ行くべきだ、との意見。道大会での佐藤講師の「名-姓か、姓-名か」にも通ずるところがありますね。下に出る筆者のアドレスはインターネット上のアドレスです。

En vortoj Europece, oni diras: "Kvin minutoj post la kvara posttagmeze, merkredo, 6-a de decembro, 1995." Sed internacie simbole, oni komencas de la granda flanko: "1995-12-05 (mer) 16:05".

En vortoj Europece, oni diras: "*Zhong* Qiyao en Teknologia Kompanio Accton (:akton)

en la komerca kampo en Tajvano." Do "zhong@accton.com.tw". Eble internacie tio devus esti "tw.com.accton!zhong".

Eble sur koverto oni skribu: TW-300-77 / Tajvano / Xinzhu / Yanxin 3 Lu 1 Hao / Zhiban -Jiaohuan Zhongshuqi/s-ro *Zhong* Qiyao. ***

★Article 132 (2184/2236) in soc.culture.esperanto:

From: Franck Arnaud <franck@altsoft.demon.co.uk> Date: Sat, 30 Dec 95 15:50:28 GMT

Subject: Re: Common European Language (was: Eurolang mailing list)

外国語の「読み書き」と「会話」とどっちがやさしいか?日本人はたいてい「読み書き」を先に習いますね。しかしヨーロッパではその逆に、エスペラントで話すが、本で習ったことはない人もいます。「読み書きを習うほうが楽」との意見(英文のところ)に対し「私は逆だった」と反論する英国の Franck Arnaud さんです。この文も主語の省略など文法的には不正確かもしれないが、会話的で内容はわかりますね。de kiel-- は会話の中で生まれた表現か、de la maniero, kiel-- の短縮形でしょう。

> It is much easier to learn how to read and write a language competently than to speak it fluently.
> mi malkonsentas. dependas ĉefe de kiel vi lernas la lingvon. kompreneble, ne facilas lerni parolatan lingvon el libro. mi mem lernis esperanton ĉefe surstrate kaj malmulte laboris libre aŭ skribe(kaj skribe nur ĉi tie). mia parolata esperanto progresis sufiĉe pli rapide ol mia skribata, mi kredas.

ザメンホフ祭(札幌, 苫小牧)

☆☆

札幌エスペラント会

馬場 恵美子

12月9日(土)札幌市職員会館において行われたが、この会館も2月で取壊しが決まり札幌エスペラント会では例会・入門講習・総会と随分お世話になったが最後のザメンホフ祭だ。まずは定番となった"La linvo por ni"を全員で合唱。続いて木村喜壬治氏からザメンホフ祭に寄せてお話。また蠟管録音から再生されたザメンホフの声も紹介され入門講習者からは感嘆の声が上がったが、残念ながら一度聞いただけでは内容を理解することは難しいようだ。近況報告を兼ねて自己紹介をしてもらおう予定だったが予想以上の参加者のため途中から氏名のみとした。参加者にはこの春オーストラリアから帰国した末永章子さん・中国の友人から手紙を受け取ったことで久しぶりの参加は砂野裕子さんと藤平あや子さん。懐かしい顔にあえることも嬉しいが入門講習者(5名)、北大グループ(3名)といった新しいエスペランティストの参加は本当に有り難い。彼らの参加でいつもとは違う熱気に会場は包まれた。 Rond 紹介では他にザメンホフの演説集、聖書、木曜会(Vinbero)の3グループが紹介された。また長く病床に有る高橋要一氏の経過がつたえられた。世界大会・青年大会の報告後大鋸敏雄氏を中心に北大グループが中島みゆきの「時代」をギターにあわせてエスペラントで歌った(訳詩は京都の大信田氏) Vinberoグループから指人形で「桃太郎」を熱演し楽しみながらエスペラントを使いこなしていることに大きな拍手が送られた。参加者30人、バザ-売上げ33,270円

*札幌エスペラント会(SES)

12月9日(土)14~16時30分、札幌市職員会館にて。

"Esperanto estas la lingvo por ni"を歌ったあと Estimata Pioniro S-ro 木村から「ザメンホフ祭によせて」の話。蠟管録音から再録されたザメンホフの声が紹介されたが、やはり音質はいまひとつなので一度聞いただけで内容を理解するのは無理だった様子。全員の自己紹介に続き、SES内の各グループの状況報告があった。

Grupo Elementa(Teksto Unua), Grupo Unua (Zamenhofaj Paroladoj), Grupo Dua(Biblio)と J'au da Kunsido の4グループ。UK, IJKの話、報告などあって Amuza Tempo. 北大の3人が中島みゆきの「時代」をギターに合わせてエスペラントで歌った。京都の S-ro 大信田の訳詩による。つづく Pupteatraĵo "Momotaroo" は熱演だった。参加者30人、バザ-の売上げ33270円。入門講習性の参加で活気のある集まりになった。

*苫小牧エスペラント会

12月18日(月)18時より本町公民館にて。

1年間の活動を振り返り、今年失敗した入門講習に来年どう取り組むか、特にPRの改善についていろいろ意見が出た。会費値上げを了承、Tagiĝo で閉会、参加者5名。

星田 淳

★
☆☆
☆☆☆
☆☆☆☆

1 La tempo

Nun la animon premas ĉi tia dolor',
Eĉ larmo ne plu restas por plor'.
Eĉ ŝajnas, ke al la rideto
Devus mi adiaŭi for...

Tamen mi nun kredu pri l'alven' de la temp',
Kiam mi ridetos pri l'pasinta sufer',
Kredu mi almenaŭ pri l'alven' de la temp',
Kiam ĉio estos jam ridinda afer';
Tial mi forgesu pri la hodiaŭa ĉagren',
Kaj nun lasu al la vent' libere biovi sur min.

* Turnas sin, turnas sin, rade turnadas sin la temp',
Alterne portas ĝojon kaj malĝojon;
Se hodiaŭ lamente disiĝis geamantoj,
Renaskiĝinte, la paro sin revidos.

Kion revas vojaĝant' dum sia vagad' ?
Kion diras al si mem en ĉiu maten' ?
Vojaĝant' ja kredas pri l'finiĝ' de l'vagad',
Pri atingo ĝis la hejm', iama reven';
Eĉ se nun malvarme la korpon trapikas la pluv',
Se ĉi-nokte jam la sort' devigos kuŝi sen mov'.

Pasas for, pasas for, flue pasadas for la temp',
Alterne nin kunigas kaj dividas;
Eĉ hodiaŭ vundite falinta vojaĝanto,
Renaskiĝinte, ek-iros sian vojon.

Turnas sin, turnas sin, rade turnadas sin la temp',
Alterne portas ĝojon kaj malĝojon;
Eĉ hodiaŭ vundite falinta vojaĝanto,
Renaskiĝinte, ek-iros sian vojon.

Eĉ hodiaŭ vundite falinta vojaĝanto,
Renaskiĝinte, ek-iros sian vojon.

(tradukis: OOŠIDA Takeŝi)

S E S のザメンホフ祭で歌われた「時代」のエス訳です。
繰返し部分はかなり早口になるので難しいかもしれません。

res - tar por plor! Eĉ saĵ - nar, ke al la ni - de - to De - vus mi
 a - di - aŭ - i for... Tamen mi nun kredu pri! al -
 Kion re - - vas vojaĝant' dum
 ven' de la temp'. Kiam mi ni - de - tar pri! pa - sin - ta sufen'.
 si - a vagad'? Kion di - nar al vi mem en ĉi - u maten'?
 Kredu mi al - me - naŭ pri! al - ven' de la temp'. Ki - am ĉi - o
 Vojaĝant' ja kredas pri! fi - niĝ' de la vagad'. Pri atin - - go
 estar jam ni - din - da afer'; Ti - al mi for - ge - su pri
 ĝis la hejm'. ĉi - a - - ma reven'; Eĉ se nun mal - var - me la
 la hodi - aŭ - a ĉa - gren'; Kaj nun la - su al la vent' li -
 Konpon trapikas la pluv'; Se ĉi - nok - te . jam la vort' de -
 be - re blo - vi sur min Turnas sin turnas sin nade tur -
 vi - gar kun ĉi ven mov', Pavaras for, pavaras for, flue pa -
 na - das sin la temp'. Al - ter - ne portas ĝo - ĵon kaj mal - ĝo -
 sa - das for la temp', Al - ter - ne nin kun ni - gar kaj di - vi -
 - - - - - jon, Se ho - di - aŭ la - men - te di - si - ĝis ge - a - man - toj
 - - - - - das Eĉ ho - di - aŭ ni vundi - te fa - lin - ta vojaĝan - to,
 Renaski - ĝinte la pa - ro sin re - vi - - - dos.
 Renaskiĝinte ek - i - ros si - an vo - - - - - jon.

60号という区切りのよい号なので会員の皆様の消息や新年の抱負を載せようと、前号にハガキを同封し、何人もの方からお便りをいただきました。

コピーしても読みやすいものはなるべくそのまま載せますが、紙面の関係もあって、何人か分は、ワープロで打ちなおして掲載させていただきます。ワープロの打ち間違いがあったならごめんなさい。忙しくて今回ハガキを出さなかった方は、春までに今年度の抱負等を御連絡ください。

Feliĉan novjaron!

*Mi deziras, ke la jaro
1996 alportu al vi feliĉan
kaj prosperon.*

近況: 大鋸敏雄・木村園子、両氏と
3人で、週一回北大で勉強会をして
います。予習復習をちゃんとやってから
会に出たいところですが、7月か7月か…。
とりあえず『エスペラント四週間』を早い
ところ 終えたい、と思っています。

1996

川合 由香

Feliĉan Novjaron!

「時代」のEsperanto訳は、著作権の問題がなければ、Heroldoに載せてもかまわない旨、訳者の大信田さんから返事をいただきました。Tekstoは新年講習会のときにでも持っていこうかと思っていますが、もっと早いほうがよければ連絡してください。

皆さん既に御存じなのかもしれませんが、札幌駅北口に「エスペラント」なる喫茶店をみつけまして、f-ino 木村と行って見たのですが、その時は残念ながらお休みでした。また行ってみようと思っています。

Nia lingvoと全く関係なかったりして……。

大鋸 敏雄

Felician Novjaron!
Don vore prenu milajn feliojn.

私にとって今年は大変忙しい年になりそうです。猫の手も借りたい (aspiri ies
ajn helpon) です。ひと息つけるのが9月の中過ぎです。しかし忙中閑あり
(estas libera tempo en granda okpateco) の諺がある様にスキ間
をぬってヘブライ語にアタックしてみようと、今資料を集めています。昨年の暮、函館
の友人からヘブライ語で十戒の石刻を完成したとの知らせがキッカケですが。ダボハゼ
と主体性のなさ丸出しですがまずは phoui! とまずは屠蘇を飲みながら計画。と
にかく1996年は一石二鳥を追わず堅実に行きたいと考えています。本年も皆様のご
指導をよろしくお願いします。

後藤 義治

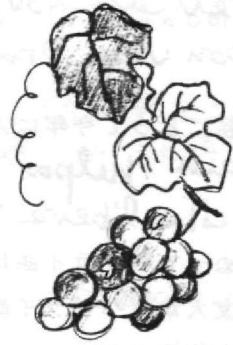
(名古屋)

近況報告 三ツ石 清
イ 私は購読会員ではない。本会員の会費
を払う。渡道70余回、よろしくね、
ロ 7Fのわが家から、望める。琵琶湖畔
の伊吹山、北に北陸国境の山山が白い。ス
キーは、もう滑れない。山スキーと歩くス
キーの板が泣いてる。
ハ 李 士俊さんからエス訳の“聊齋志異”
(Mirrakontoj) を戴く。夢中
で読んでる。中国きっての古典。妖怪、狐
妖が人間世界で恋をする、面白い。同じ中
国世界語出版社出版の老舎原作“駱駝祥子”
(Kamelo Ŝjangzi) を読んで
以来の好読み物。訳文は平易で読みやす
い文である、HELの諸君に薦めたい。

ニ いささか慨嘆すること
日本大会文芸コンクールの応募者が4名
とかで、オドロキ。もっともRO誌12月
号の大会報告には、どこにもコンクールに
ついての記載記事がない。広島大会のPR
文にも何も書いてない。コレデハネ。
Diplomoの授与者は、大会名誉委員
長でJ E I理事長がなってるが、J E Iの
どこの部の所管か、星田評議員に聞きたい。

予より本曜会の名前を
考へておりました所、此の度
Vinbero(ぶどうの粒)に
決まりました。

Vinberoj → Vinberaro
ぶどうの粒、ぶどうの房
を以て Vinberujo ぶどうの樹
に成る所、願っております。
皆称どうぞご参加を!



差出人不明 (札幌中央局の消印)

一月二十七日の勉強会出席、夜の新年会欠席です
エスペラントに関して新年の抱負を……と考えてみましたが何時もの様にあまりピ
ジョンを持たないのが本品の特徴らしく案の状何も書くことがなくて困りました。そこ
でエスペラントに直接関係はありませんが一言を。

毎週新聞の書評を読むのが楽しみの一つなのですが一月某日、日本残酷物語(平凡社
ライブラリー1~4巻)が目にとまり買い求めました。

私の祖父は明治時代に7才で北海道に移住して来た人なのですがその折の生活の云う
に云われぬ辛酸を言葉少なではありますが小供の頃に時折聞いたことがありました。

豊かな今の私達の生活がある前にいろいろな人生があるのはもちろんです。近代史の
一こまとして一読をお勧めします。胃にズシリと来るような重たい本ですが……。新
しい哲学があなたの中に生れてくるかも知れません。

(一言、書店には売切れで第4巻しかなく、それのみ現在よみました)。

(原文縦書き)

山岸 悦子

関西エスペラント会に お邪魔しました

11月所用で吹田市に行くのを利用して近辺の講習会に参加。まず事前に関西連盟に照会。高槻へは竹内義一氏に連絡したところ中国のLi Shijun氏の歓迎会をすることのこと。彼の知識の広さ深さにはビックリ！中でも日本との戦争について語ったことは今でも深く私の胸に刺さり込んでいる。翌日の講習会にも参加。年に2度の入門講習の春季分は経費を市で負担。入門講師は入門経験から2年弱で今度は講師をする。別室では1部屋を使い進み具合に応じる複数クラスで利用。点字のテキストを使つての受講者も有る。全般的にかなり手厳しい。そして吹田。ここは明るい笑い声が絶えない。やはり市のポスターにエスペラントという文字が載っているのは羨ましい限りだ。各エスペラント会の皆さん私のような者を受入てくださり有難うございました。とても参考に成りました。

馬場 恵美子

Tomakomai, '96.1.2

Karaj samideanoj,

Mi Deziras, ke la nova jaro 1996 estu esperplena por ni ciuj.

Jen mi rakontu.....

☆ Fumiko, mia plej kara — の故障で今年最初の試練 — 苫小牧E会の新年会も流れました。手術後経過順調です。2カ月のリハビリで春には回復できるでしょう。

☆ R.O.にも出ていた「電卓」計画 — コンピュータやワープロで使える電子辞書 (Esp — 日)作りが進んでいますが、これにHEL会員3人が参加しています。20人ばかりの中に北海道から3人とはいい比率だと思います。

星田 淳

室蘭からの近況報告、

95-12-12

月刊雑誌(勿論エス文)を読みたいと、以前から考えていたがすぐる北海道大会でそれが何種類か紹介されていたし、最近ではROの表紙でも毎月紹介されている。

見本誌をとるのも、まだるっこのでFonto(ブラジル発行の文芸誌)を峯さんとこにお願いしたら年度途中からの購読を受付してないので発送は来年になるがとりあえずその最新号と別に“Riveroj”-これは編集が峯さんで年4回の発行、海外にも向けられている。この雑誌は活字が大きいし読みやすい、そして面白い。“斜陽”(太宰治)のエス訳、話題の?“二ひらの雪”に対する中国読者からの批評など、ポケットに忍ばせて電車の中でも楽しみながら読める-を送っていただいた。

Fonto-送っていただいた見本誌にはすぐる世界大会での文芸入選作が掲載され、エッセイの部で1位に選ばれた栗栖継さんの“Kiel Esperanto helpis al mi solvi enigmojn de ‘Riporto’”かなり長文のエッセイがある、いま途中まで読み進めているにすぎない。

この“Riporto”は、“Riporto skribita en la pendumila maŝo”の短縮で日本語訳で“死刑台からのレポート”と訳されている。JEIの図書カタログでも短縮されない題名でている。

1943年春-共産主義者で新聞記者、作家でもある著者が獄中で極秘に記したものを極秘にガードマンの手で持ち出され数ヶ所に隠しておいたものを、チェコ開放後にそれを集めて著者の未亡人が出版した。著者はベルリンに送られる前、その年の9月に処刑された。

その本の英訳とエス訳に(4章、5章、7章)差異があることに気付いた論者が仮説をたてつつその原因を追及してゆく-途中まで読んで、こう書くのも傲慢だがこんなところだ。

国際鉄道員エスペランチト会員になっているので隔月に“INTERNACIA FERVOJISTO”を送ってくれる。それが結構たのしい。“Senpaga ekzemplero de HEROLDO”の記事を見つけては、葉書で依頼するとイタリアから世界大会特集が送ってくる。

こんなことで机の上がいっぱい、とりあえず最近情報です。



室蘭-須藤昭三

1996 01 13

Feliĉan Novjaron!

La 27an de dec. mi revenis de Ŝanhajo, Ĉinio, kie mi ĉeestis la kunsidon de Komisiono pri Azia Esperanto-Movado (KAEM) plus Loka Kongresa Komitato por la 1a Azia Kongreso de Esperanto. La Kongreso okazos en Ŝanhajo la 22-25an de aŭg. ĉijare. Ĝi estos la unua granda renkontiĝo iniciatita de civitanaj esperantistoj en Azio. Mi ege esperas ke en la Kongreso ardos la diskutoj kun samideanaj sentoj pri la problemoj kiuj serioze rilatas al la historio kaj la estonteco de la popoloj en nia mondparto. Via partopreno estas atendata.

Jen mia nuna stato responde al la demando en Heroldo de HEL.

Takenti

竹内 義一 (高槻)

前略御免下さい。小生本年一月上旬より風邪を引き、其の後肺炎にかかり二月より四月まで入院生活を送り、木村先生の教室にも全く出席せず、ESの勉強もして居りません。長い間皆様様に御指導を頂き誠に申し訳なく存じますが、最近も不眠症にかかり、毎夜眠り薬りのやっかいになっている次第です。

右の様な事情で、全て脱会いたすことになりましたので、よろしくおねがい申し上げます。

木村先生を始め皆様によりおねがい申し上げます。

最後に皆様の益々の御健勝を心よりお祈り申し上げます。

(原文縦書き、昨年12月受領)

加賀谷 勇

Novjara Saluto de S-ro rolf ernst en Svislando
スイスの S-ro rolf ernst からの年賀 (世界の友へ - 電子メール)

元日の朝、スイスの rolf からメールが入っていた。第1行にあるとおり、世界の24人の友人に当てた年賀である。日本人の名も何人かあるが北海道からは私だけ。インターネット経由で元日配信にしたものらしい。次に内容を紹介します。見事なマルチタレントぶりですね。(星田 淳)

★#15484614 96/01/01 08:10:49

文書名: novjarsalutojn

karaj amikoj en la mondo.

denove pasis tuta jaro, kaj nun, jarfine, mi prenas la okazon por iometete raportii pri kio okazis en mia 1995.

la jaro komenciĝis en tuebingen, germanio. tie okazis la internacia seminario (i.s.). do, esperanto ankaŭ ĉijare okupis min. mi partoprenis jenajn renkontigojn:

i. j. f. (italio), kiso (germanio), u. k. (finlando). krome kelkajn semajnfinaĵajn eventojn. tutentute ĉirkaŭ 30 tagojn mi troviĝis en esperantujo. nun mi jam la kvaran fojon partoprenas i. s. -n en germanio.

pasporta servo: ĉijare mi ne gastis, sed nur gastigis, kaj tio estas same plezure. ĉijare estis 15 gastoj, el jenaj landoj: kroatio, bulgario, koreio, usono, germanio, francio, finlando, itatio kaj aŭstralio. inter la gastoj estis tre mirindaj personoj, kaj mi ŝatintus havi pli da tempo por babilii kun ili.

krome mi estas ankoraŭ aktiva en la junularo esperantista svislanda. mi ne plu emis esti vicprezidanto (mi lasis tiun postenon al aliulo), sed daŭre eldonas la gazeton "la kanguruo" (antaŭe "la svisa kanguruo", sed

mi definitive sennaciigis ĝin - ni esperantistoj devus esti la unuaj, kiuj superas la naciisman pensmanieron).

muziko: bedaŭrinde mi ne havis sufiĉe da tempo por mem muzikumi, tamen kun mia amiko fresh fredy (pseudonomo) surbendigis kelkajn novajn trakojn por nia kvara kasedo (de 1990 ni nomiĝas fresh fredy & the french fries). labore: tio sufiĉe bonas en la reklama buroo, kie mi estas dungita definitive en februaro 1995. precipe agrable estas, ke mi povas labori 80% de la tempo, tio signifas, ke havas (pli bone: havus) du liberajn duontagojn. la firmao nomo estas "advision", kaj estas nun du laborantoj (dum duona jaro estis tria, kiu ŝanĝis la laborejon antaŭ kelkaj semajnoj). precipe antaŭ kristnasko estis tre streĉa tempo, sed ni povus fini multajn projektojn.

en la libera tempo mi prizorgis kelkajn privatajn presadojn, inter ili broŝuro por mia patrino, la poŝtkarto "tero" (jam vendigis 3000) kaj invitkarto por ekspozicio.

kursoj ĉijare: mi partoprenis kuirkurson kaj kurson pri kaligrafio. lingve mi memstude ekokupiĝis pri la nederlanda kaj la sanskrita. kaj daŭre mi klopodas plibonigi la scion pri la japana. kaj nun, karaj:

plenan feliĉon en la nova jaro !!

kore salutas vin kaj viajn familianojn

rolfo

Anglalingva senkosta esperantkurso
発展するエスペラント無料講習会 (インターネット上で、英語で教えています)

HOSIDA (Tomakomai)

ネットワークの伸びにしたがって受講者が増え、昨年前半の30~50人/月が12月には78人になって指導の限界82人に迫り、新たな対応が必要になっています。

★Article 150 (2202/2236) in soc.culture.esperanto:

From: marko@tekelec.com (Marko Rauhamaa)

Date: 2 Jan 96 04:06:21 GMT

Subject: Anglalingva senkosta esperantkurso: rekorda decembro

Mi ĝojas raporti, ke la intereso pri la anglalingva SEK kontinue kreskas — probable kune kun la kresko de la reto mem.

En decembro 1995 la kursmaterialon ricevis 78 interesatoj, dum la kutima monata ponombro en 1995 estis inter 30 kaj 50 (en novembro pli ol 60).

Nia nuna traktopovo estas po 82 interesatoj monate, do la kurso ree estas proksime al sia maksimumlimo. Tamen mi ankoraŭ ne petas, ke la tuta ret-Esperantujo sin registru kiel gubernistojn por la kurso. Mi kredas, ke pluraj el niaj jamaj gubernistoj estas pretaj kreskigi sian traktopovon.

Ĉi tio ja estas la sola statistiko, kiun mi pluestigas, do mi ne povas diri ion pri tio, kiom el la interesatoj fakte komencas la studojn kaj kiom diplomigas. Mi intencas enketi pri la afero post nelonge.

Ĝis nun mi ne havis ŝancon inspekti la enhavon de la kurso. Mi ne maltrankvilas tiom pri nia traktopovo kiel pri la kvalito de la kurso.

Ju pli la kurso kreskos, des pli grave estos, ke la kurso estu senerara, entuziasmiga, moderna kaj tiel plu. Eble per la nuna nivelo de TTT-tekniko* ni povus aldoni bildojn, voĉon kaj latin-3 -signarojn al la enhavo de la kurso.

Mi ne rigardas min kompetenta fari tiun laboron, nek mi havas energion por ĝi. Mi esperas, ke volontuloj — aŭ gubernistoj aŭ eksteruloj — konsistigu laborgrupon por pripensado pri kaj efektivigado de la evoluigado de la kurso.

Marko

Kursadministristo

Senkosta (anglalingva) esperantkurso

TTT-tekniko*: インターネットといえばこれ、と思われるほど知られてきた、画像なども使って企業や団体などのPRに使われる「ホームページ」(esp-e:hejmpaĝo)の技術。英語のWWW(=World-Wide Web)は、エスペラントではTTT(=Tut-Tera Teksaĵo)です。

札幌エスペラント会から

馬場 恵美子

*札幌市職員会館でほとんどの講習会が行われていたが2月末日で取壊しとなるので、それ以降の講習会場の問題も含めて2月17日(土)13時30分から同場所で札幌エスペラント総会を開きます。

当日直接会場にお越し下さい。

*3月は札幌市教育文化会館(中央区大通西13丁目)を講習会場に利用します。

* * * * *



<学習コーナー>

gendarmoについて。

和エス辞典には(憲兵)、軍事警察の兵士です。語源的には、門の前に立ち、番をする人。文学、読み物の中に出るジャングルムは、憲兵のほかに、高山の前衛の山の意味です、日本では北アの奥穂高岳に並んだ山、ジャングルムがあります。

januarioは、ヤヌスの神の月です。ヤヌスは、家の入口を守る神です。一月は一年の入口ですから。

単語の語源的意味を知るとは、大切です。興味あることです。 老登山家 m



Heroldo de HEL

第60号 (1996.2.10)

北海道エスペラント連盟機関紙

編集部

〒001 札幌市北区北12西1パークMS602

阿部映子気付 (電)011-756-2291

郵便振替口座

02700-6-17075

北海道エスペラント連盟